

国際共同研究セミナー

近代建築史の境界を超えて

東アジアの近代建築史は、他の多くの歴史研究と同様に、日本や韓国、北朝鮮といったナショナルな枠組みで構築されてきた。しかし、そうした国家的な枠組みで語られた歴史だけでは、近現代の実相は捉え切れないのも事実だ。近代化の諸現象は、それぞれの国家や民族、地域や宗教・文化を越えて広がるため、もちろんそうしたこともまた、研究者たちは長く議論してきた。今回のセミナーでは、主に学生を対象に、日本、韓国、北朝鮮の近代建築史がどのような歴史研究として構築されていったのかを概説する。その上で、材料や技術といった視点から、国の枠組みや都市のヒエラルキー、単純な時代区分だけでは思いもつかないような繋がりを解きほぐしてみたい。なお、本セミナーは、国際共同研究加速基金「冷戦下東アジアにおける都市の対立と依存に関する歴史研究」(17KK0024)の成果概要報告も兼ねる。

2023年7月20日(木)14:45~18:00

人間社会第1講義棟 202 講義室

主催: 科研費国際共同研究加速基金「冷戦下東アジアにおける都市の対立と依存に関する歴史研究」(17KK0024)

共催: 金沢大学・新学術創成研究機構 文化遺産国際協力ネットワークユニット

連絡先: tryuichi★staff.kanazawa-u.ac.jp(谷川まで。★を@に変えて下さい)

14:45- はじめに 共同研究の概要とこれからの展開(司会: 谷川)

15:00-15:30 発表 1

「木浦から朝鮮半島の近代建築史を見る——周縁を中心に、分断を連続に」

徐東千(韓国 木浦大学校・工学部建築学科 助教授)

15:30-16:00 発表 2

「アメリカ・日本・北朝鮮を繋ぐ水をめぐる技術——植民地開発から考えるエネルギーと都市の20世紀」

谷川竜一(金沢大学・新学術創成研究機構 准教授)

16:00-16:30 発表 3

「ウォートルス兄弟の日本・ニュージーランド・アメリカ——幕末・明治を駆け抜けた技術者」

水田丞(広島大学大学院・先進理工系科学研究科 准教授)

16:30-17:30 質疑と議論

17:30 まとめ

※ 各発表者のタイトルは仮です。